

『ふおれすと鉱山』がこうなったらいいのになあ

～ふおれすと鉱山利用者懇談会～

3月4日(土)、『ふおれすと鉱山の利用者懇談会』（NPO法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶ主催）が、同施設で開かれ、子どもから高齢者までの30人が参加して意見を交わしていました。

この懇談会は、宿泊型自然体験学習施設『ふおれすと鉱山』を利用している市民から、日ごろ感じていることやこれから行う事業の希望などを聞こうと開催したもので、『どのように利用していますか』や『ふおれすと鉱山を利用していくのにこうなったらいいなあ』を大きなテーマに懇談。参加者からは、利用者がもっと利用しやすいように駐車場の拡大や貸し出し用テントの整備、屋外トイレの設置などの施設や用具に関することから、森のコンサートや夜間の動物ウォッチング、高齢者が楽しめるイベント、坑道探検ツアーなどの事業に関する意見まで出され、より良いふおれすと鉱山を目指そうと活発な懇談が行われていました。



▲夏休みスペシャルウィークより（8月12日）

レジ袋からマイバッグへ

～マイバッグ作り講習会～



3月16日(木)、クリンクルセンターで『マイバッグ作り講習会』（登別市衛生団体連合会主催）が開かれ、20人の市民が参加しました。

この講習会は、今まで『ごみ』としていたものを『資源』として『再使用』『再利用』し、ごみの減量化やリサイクルを啓発しようといわれたもので、登別消費者協会の会員3人が講師となり、壊れた傘の布地からマイバッグ（買い物袋）を作りました。

昨年も参加したという北山さんは、「買い物のたびに、レジ袋をもったいないと思っていたので、買い物には、マイバッグを持って行きます。去年はうまくできなかったので、今年もうまく作りたいですね」と話してくれました。

もしもの時に役立てればいいな

～AED（自動体外式除細動器）講習会～

3月17日(金)、市民会館で『AED講習会』（日本赤十字社北海道支部主催）が開かれ30歳代から60歳代までの12人が参加しました。

AEDとは、心室細動などの致死性の不整脈の状態のときに、心臓に電気ショックを与えて正常な状態に戻す医療機器のことです。一般市民の方にもその使用が認められたことから、AEDの知識と技術の習得を目的に講習会を開催。講習会は、救急についての説明の後、はじめに心肺蘇生法の実習が行われ、その後にAEDの実習を日本赤十字社救急法指導員の上田直人さんと佐藤勝明さんを講師に行われました。

参加した看護師の安部幸恵さんは、「もしもの時に役立てればいいですね。経験がないので参加しました」と真剣に取り組んでいました。

平成18年度からは、日本赤十字社北海道支部が行う赤十字救急法養成講習会で、AEDについての講習も行う予定です。

